

**放送日** 令和2年10月1日(木)  
**担当者** 企画課長 橋本 征紀

おはようございます。企画課長の橋本です。

ちょうど一年前の今日、10月1日に北海道中央バスが運行する北広島団地線を「さんぼまち・東部線」として再編し、新たな路線の運行が始まりました。

この路線は、利用実態に合わせた時間帯別の運行体系となっており、日中時間帯を中心に循環路線を導入するなど、従来にはない特徴を持っており、バス事業者からも他に事例のない運行体系であると伺っています。挑戦的な、また先駆的な路線といってもいいと思います。

地域にも定着し、少しずつ利用者も増えていきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、状況が一変しました。「さんぼまち・東部線」のような乗合バス事業については、収益性が低く、特に地方においては、その傾向は顕著であり、各自治体において補助金を入れて、路線を維持している現状にあります。

「さんぼまち・東部線」の利用者は、現在6割程度の回復に留まっており、先が見通せない状況が続いています。また、バス事業においては、乗務員不足や利用者の減少など慢性的な課題を抱える中、新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、一段と厳しい経営環境となっています。

路線再編の効果を見ることなく1年が経過してしまいました。再編作業に携わった者からすると、非常に残念な思いがありますが、路線バスについては、学生や高齢者など、移動手段を持たない方の日常生活を支える重要な役割を有しており、これからも、その役割は変わりません。新しい生活様式に応じた、地域の皆様に安全に利用していただける路線バスとなるよう、事業者とも連携し、前向きな議論を進めていきたいと考えています。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月2日（金）

**担当者** 道央廃棄物処理組合次長 棚田 吉浩

おはようございます。道央廃棄物処理組合の棚田吉浩です。

現在、道央廃棄物処理組合では、ごみ焼却施設の建設を行っており、場内整地と盛土、造成工事を開始しております。

この施設は、令和6年度からの事業開始を目指しており、北広島市のごみは千歳市根志越の長都大橋のそばにできるこの施設で処分されることとなります。

この施設での広域ごみ処理は、千歳市、北広島市、長沼町、南幌町、由仁町、栗山町の2市4町をエリアとしており、組合は焼却施設の設置、管理及び運営に関する事務を共同で処理する一部事務組合として、平成26年に設立されています。

その他、事業の概要や進捗状況については、「道央廃棄物処理組合」のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

さて、最近では「プラごみ・コロナごみが増えている。」と報じられています。

このことは、皆さん、ご存じのとおり、新型コロナウイルスの影響によって生活様式が変わり、外出を控えてのデリバリーや自宅にいる時間が増えて、いつも以上に自宅で調理する機会が増えたことによるもので、プラスチック容器などのごみの増加。その他、マスクや手袋などの「コロナごみ」の増加も問題になっています。

焼却施設のごみ処理量にも上限はありますし、いま、北広島市でのごみの埋め立てる量にも限界があります。私たち、地域に住む一人一人が、少しでもごみを減らす努力をさらに進める必要がありますね。

現在、新型コロナウイルスの影響が長期化しています。

新型コロナウイルスに強い地域社会を目指し、こまめな手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」の実践にご協力をお願いいたします。

**放送日** 令和2年10月5日(月)  
**担当者** 総合計画課長 佐藤 直人

おはようございます。総合計画課長の佐藤直人です。

総合計画課での在籍が1年半を経過しました。来年4月からスタートする第6次の総合計画については、6月の第2回定例会で基本構想の議決をいただき、推進計画についても、先日皆さんからの要求をいただき、査定作業を行っています。今後は基本計画案の再確認やSDGsの17のゴールと政策の紐づけなど、また皆さんにいろいろとお願いをすることとなりますが、よろしくお願ひします。

さて、私事ですが、昔から虫歯に悩まされています。2年ほど前に虫歯で激痛が走り、歯医者さんの治療を受けていましたが、忙しさなどを理由に治療が終わっていないにも関わらず、通院を勝手にやめてしまいました。その間にも虫歯は進行していたようで、1か月半ほど前、エルフィロードを上野幌駅付近までウォーキングしていた途中、運動により歯の神経を刺激したのかどうかわかりませんが、激痛が走り、後日痛みを耐えかね歯医者さんに駆け込むこととなりました。先生から治療を中断したことに対してのお叱りを受けながらも、今度は治療に励むよう心を入れ替えました。虫歯により思うように食べ物を噛むことができなくなりましたが、治療により、あらためて歯の大事さ、しっかり噛んで食べられる喜びを実感しました。一方で、これまでケアを怠ってきた代償として、虫歯になった奥歯を抜いて、その奥にある親知らずを移植する手術を受ける羽目になってしまいました。人間ドックなどで検査される項目と違い、歯についてはどうも後回しになってしまいますが、虫歯を放置しておくと、様々な病気を引き起こす恐れもありますので、皆さんも血圧や血糖値などとあわせて、歯にも十分に注意してください。もしかすると私の場合、80歳で20本の歯を残すことは難しいかもしれませんが、1本でも多くの歯を残せるように気をつけていきたいと思ひます。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月6日（火）  
**担当者** 政策広報課長 及川 浩司

おはようございます。政策広報課長の及川です。

今朝は、職場の雰囲気を良くすることが、業務を適切に進めるうえでいかに大切であるかについて、私なりの考えをお話しさせていただきます。

皆さんの職場では、「どことなくギスギスしていて、同僚に仕事をお願いしようにも頼みづらい。」「上司に相談したいけど、忙しそうにしている声をかけづらい。」などということはないでしょうか。そんなコミュニケーションも取れないような職場では、情報を共有することができずに、それが原因でいずれ大きなミスやトラブルに繋がってしまうことも考えられます。職員構成の変化により、若い職員が増加している現在、特に注意が必要なのは、職員が情報を抱え込んでしまうことであり、職場の雰囲気が殺伐としていると、職員が困ったことを誰にも相談できなくなり、大きなトラブルへと発展した後、発覚することも起こり得ます。抱え込んだ職員を責めるのは簡単かもしれませんが、相談できない雰囲気を容認していた自分たち、特に管理職にはその責任の一端があると考えるべきでしょう。

では、どうすれば雰囲気の良くない職場を、明るく風通しの良い職場にすることができるのでしょうか。言い古されたことですが、やはり「挨拶」が一番大切であると私は思います。では、挨拶をするうえで大事なことは何でしょうか。それは、「どんな相手に対しても自分から挨拶すること。」です。仮に相手が自分の部下や後輩だったらどうでしょう。相手から挨拶して当然と考える人もいるはずですが、しかし、自ら挨拶してくれる相手に対し悪い感情を抱く人は、まずいません。特に上司や先輩に対しては若手職員も心を開き、「この人になら色々と相談できるかもしれない。」と思ってくれる職員もいるかもしれません。挨拶は、雰囲気作りの礎となるものです。全員が笑顔で挨拶できる職場なら、自然と雰囲気も良くなるはずですが。職員の皆さん、まずは、今日から自分だけでも自発的な挨拶を徹底してみてもいいでしょうか。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月7日（水）  
**担当者** 財政課長 佐藤 亮

おはようございます。財政課長の佐藤 亮です。

皆さんは、毎年8月末に、総務省から来年度の地方財政の見通しが示されていることをご存知でしょうか。

この「地方財政収支の仮試算」は、自治体が次の年度の地方財政の姿を見通せるよう、総務省が、国の来年度予算の概算要求に合わせて作成しているものです。

仮試算の計数はあくまで仮置きでありながらも、国が現状で来年度の地方財政をどのように見ているのかを把握できることから、各自治体の予算編成・財政運営に大きな影響を与えているものであります。

さて、今年度の仮試算は、感染症の影響により、1か月遅れの9月末に公表されました。厳しい内容となるだろうと予想していましたが、予想以上の衝撃的な内容となっています。

地方全体の歳出は90兆8000億円と昨年度とほぼ同額である一方、歳入については、地方譲与税を含めた地方税収が8.3%、3兆6000億円の大幅減、さらに、地方交付税の原資となっている国の税収の減少に伴い、地方全体の財源不足額は10兆2000億円に達し、この財源不足を穴埋めするために地方が借り入れなければならない借金の額は、昨年度から倍増の6兆8000億円に膨らむと示されております。

今後、年末にかけての国の予算編成過程で、地方財政の状況についても調整されていきますが、地方財政悪化という大きな流れは変わらず、本市の来年度の財政運営も大変厳しい状況に置かれるものと考えております。

ですから、職員の皆さんにおかれましては、このような厳しい状況をご理解の上、どうか、より一層の経費の節減と歳入確保を念頭におきながら、日々の業務に当たっていただきたい旨、お願い申し上げます。

本日も、感染拡大防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底等「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月8日(木)  
**担当者** 建設部次長 新田 邦広

おはようございます。建設部次長の新田邦広です。

みなさんの中にも既にボールパークの現場に足を運んだり、インターネットを通じて、現場の状況を楽しみに見ている方も多いことと思います。私もその一人であり、10を超えるクレーンがそびえ立ち、400名もの人員で作業されている現場を、ワクワクしながら見えています。

しかしその反面、壮大なスケールの現場管理においては、抗うことのできない天候に左右されながら、輻輳する現場の調整はただでさえ大変なところに、コロナ禍における感染防止対策、人員の確保や資材の調達など、相当な苦悩や努力があるものと、頭が下がる思いで見ている一面もあります。

さて、話は変わりますが、平成7~8年頃、私は下水道課で、管渠を布設する工事を担当していました。当時は、アメリカからの圧力もあり「内需拡大」が声高に掲げられ、インフラ整備などが急速に増大している状況下であり、国道の拡幅工事などが、当初の予定より大幅に延長が延びるなど、道路敷地に下水道管を布設させてもらう占用者として苦慮した記憶が残っています。

国道の工事となると、上下水道の外、電気や通信など多数の占用工事が輻輳します。限られた時間やスペース、交通を確保した中での作業など、様々な制約を受ける中で、各工事の責任者は、自分の工事を如何に効率良く進めるかを第一に考えなくてはなりません。

施工に時間を要する下水道工事は、他の工事に大きな影響を与えてしまい、工程の見直しを迫られるなど、現場が行き詰まることも多々ありました。

そのような状況の中、工事を予定どおり完了することができたのは、はじめは反発していた関係が、情報の共有化が進むにつれて、相手の立場を考え、いつしかチームワークの様なものができたからだとは思っています。ボールパーク関連の工事を含め、市内ではこれまでにない程の多くの現場が稼働しています。様々な問題が、次々と湧き出し、対応に苦慮している監督員も多いことと思います。現場管理においては、当たり前のことではありますが、とにかく現場に足を運び、状況を自分の目で把握しておくこと、現場でのコミュニケーションを広げること、そして、行き詰りそうになったら、早めに多くの人のお知恵を拝借することです。このことは、すべての業務に通じるものと思っています。

最後になりますが、1年半ぶりに建設部に戻りましたが、「これから、これまでを決める」という新たな気持ちで、後世に引き継ぐ施設を、諸先輩や若い職員の皆様と一緒に造っていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月9日（金）  
**担当者** ボールパーク推進課 柳下 堅志

おはようございます。ボールパーク推進課の柳下です。

北広島市職員の皆様方におかれましては、北海道ボールパーク F ビレッジの建設に向け、多方面から多大なるご協力をいただいております。大変ありがとうございます。感謝申し上げます。

エスコンフィールド北海道建設工事につきましては、今年の5月に着工し、これまでのところ2023年3月の開業に向けて順調に進捗しています。建築現場を外周道路からご覧になった方もいらっしゃると思いますが、敷地西側、札幌養護学校共栄分校さんの方向から建築現場を見ますと、左右に大きいコンクリートの塊が目に入るかと思えます。あれが世界でも類を見ない、可動式切妻屋根のレールが乗る基礎で、横幅約180mの屋根がああ規模感で動くことになります。設計段階で数字は理解していたものの、実際に目にしてみるとその大きさに改めて圧倒されます。今年には安全対策に加え、新型コロナウイルス対策を万全に取りながらの工事となっているため、場内の見学を原則お断りさせていただいている状況でしたが、来年度からは特に地元の方に現場を見ていただける機会をご提供したく、見学受け入れ体制について関係者で議論しているところです。

私は昨年1月から、ファイターズからの出向として皆様と一緒に仕事をさせていただいていますが、早くも1年9ヶ月が立ちました。新球場が開業する日は2023年3月ということで日にちまでは明確には決まっていますが、仮に3月1日になんらかの形でオープンするとしますと、残り872日となります。ずっと先の事のように感じていましたが、3万人を超えるお客様をあの場所でお迎えするまで、実はそんなにのんびりとできない時期になってきました。世界がまだ見ぬボールパークを作り上げるには様々な面で挑戦が必要になってきますが、Challenge with Dream, 夢のある希望都市・交流都市・成長都市の実現に向けてぜひ市の皆様と球団が一丸となって進んで参りましょう！

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月12日（月）  
**担当者** ボールパーク施設課長 中垣 和彦

おはようございます。ボールパーク施設課長の中垣です。

ボールパーク施設課の主な仕事は、ボールパークに関連する道路や公園、上下水道の整備など、インフラ整備に関する業務であり、新球場の開業予定である2023年春までの完成を目指して業務に取り組んでいるところです。

現在、北海道ボールパークFビレッジ周辺の道路では、道路上の電線を地中に埋設する、無電柱化の工事が進められております。

無電柱化することにより、地震や台風などの災害時において、電柱が倒れて通行ができなくなることがありませんし、歩道に電柱が無いと、高齢者や障がい者の方も通行しやすい道路とすることができます。また、良好な景観の形成に寄与するなどのメリットもあります。

その一方、電線を地中に埋設する電線共同溝方式は整備コストが高いことが課題となっており、無電柱化がなかなか進まない要因ともなっています。

整備費用については、コスト削減を目指して、技術開発が進められているところであり、整備箇所についても、地域ニーズにあわせた、必要な道路の無電柱化の推進を図っているところです。

北広島市内の無電柱化の状況は、道路延長約450kmの内、現時点で無電柱化されているのはJR北広島駅東側の1km、率にして0.2%という状況です。

今回のボールパーク周辺道路の無電柱化は3.5kmの整備を予定しており、安全で快適な通行空間の確保と、電柱の無い美しい街並みの形成を図っていきたいと考えております。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。



**放送日** 令和2年10月13日（火）  
**担当者** 総務課長 杉山 正一

おはようございます。総務課長の杉山です。

昨年に引き続き、市役所から出るごみの分別についてお話しさせていただきます。

環境への負荷の少ない持続可能な社会を実現するため、ごみの発生を抑えるリデュース、再利用を図るリユース、再資源化を図るリサイクルのいわゆる3R（スリーアール）が取り組まれているところです。

市役所においても、ごみのうち産業廃棄物にあたらぬものは、事業系の一般廃棄物として、古紙やミックスペーパー、びん・かん・ペットボトル、生ごみ、プラスチックなどに分別し、ごみの資源化や減量化に努めているところです。

現在の分別状況について、清掃業者の方にお伺いしたところ、職員皆様のご協力により、昨年に比べて、かなり良くなったとのことでしたが、一部、ミックスペーパーのところに、箱に詰め込まれたタバコや使用済みのマスク、生ごみなどが入っていたり、ペットボトルのラベルやキャップを取らずに捨ててあったり、また、最近では、びん・かん・ペットボトルやお弁当の容器に洗っていないものが見られるようになってきたとのことでした。

これらの不適切に廃棄されたごみは、清掃業者の方が一つ一つ手作業で分別・整理をいただいています。

ごみを捨てる際には、このごみはこの後どうやって処理されるだろうか、ということをご一度念頭に置いていただき、引き続き分別等にご協力いただきますようお願いいたします。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月14日（水）  
**担当者** 子育て支援部次長 尾崎 英輝

おはようございます。子育て支援部次長の尾崎英輝です。本日は「仕事を伝える」ことについてお話しします。

若い職員の方は信じられないかもしれませんが、北広島市は昭和50年頃からの団地造成に伴う大量採用により一気に職員が増加し、職場は20代の若い職員であふれ活気に満ちていたそうです。同世代の職員が多かったことから、わからないことはお互いに相談しながら、切磋琢磨しながら仕事を行ってきたと聞いています。私はその世代から仕事を教わってきましたが、その教え方は主に自らの経験を伝えるもので一から理論的に教えるというものではなかったため、自ら調べ考えながら仕事をし、それを先輩や管理職に見てもらい、時には怒られながら仕事を行ってきました。40代50代の職員は、仕事は上司から怒られ、自ら考えて身に着けることで一人前になると考えている人が多いと思います。ですから部下や後輩への指導も自分と同様、自らの経験を伝え「とりあえずやってみて、わからないことがあれば聞いて」といったものになります。この方法が悪いと言っているわけではありません。しかし、今の若い世代は自分たちと比べると真面目で「怒られ慣れていない」傾向があると思います。聞けと言われたから聞いたのに「こんなこともわからないの」「前に言ったよね」などと言われると真面目な分「自分は出来ない」と自己否定してしまいがちです。自分たちだって初めから色々出来たわけではありません。私なんて今でも出来ないことだらけです。部下や後輩に仕事を伝える際には、心に余裕をもって接し「何度でも聞いていいからね」と伝えることで安心して仕事に向き合うことが出来、成長してくれるものと思います。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月15日(木)  
**担当者** 行政管理課長 若澤 路子

おはようございます。行政管理課長の若澤です。

今日は、情報セキュリティ対策に関することについて、お話をさせていただきたいと思います。

私たち市役所職員の日々の業務においては、市民の皆さんや職員の個人情報をはじめとして、多くの行政情報を扱っています。万が一、これらの情報が、システムの障害やコンピューターウイルスへの感染、職員の不注意などによって、外部に漏えいしたり、改ざんされたりするなどの事故が起こった場合、社会的にも非常に重大な影響を与えることになります。

先日、ウイルスに感染したメールが庁舎内で確認されました。最近では、実際取引先を装ったウイルス付きのメールが、国内でも多く確認されています。不自然なメールの添付ファイルなどは決して開かないよう、ぜひ注意してくださいませう、お願いいたします。

行政管理課におきましても、情報セキュリティ対策基準を策定し、その基準に則った対策を講じているところですが、職員の皆さん一人ひとりが、情報セキュリティに対する知識を持っていただき、また、常に意識していただくことで、日々の業務を安全に、トラブルなく行うことができるものと思います。

私も、行政管理課に配属される以前には、情報セキュリティに関する認識不足や、不注意がもとで起こったトラブルについて、行政管理課の担当者から、厳重な注意を受けたことがありました。

この4月から行政管理課に配属され、市役所全体の情報資産の適切な管理について、職員の皆さんにお願いしなければならない立場となりましたが、今までの自身の認識の甘さを、日々痛感しているところです。

職員の皆さんにおかれましても、今後開催を予定している研修などにもご参加いただき、情報セキュリティに関する知識や意識を高めていただければと思います。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月16日（金）  
**担当者** 秘書課長 福田 誠

おはようございます。秘書課長の福田誠です。

私は平成8年に採用していただき、早いもので今年、25年目を迎えました。これまで業務を通して多くの方々とお会したり、電話でお話しをさせていただいておりますが、挨拶や言葉遣いなどの礼儀はもちろんのこと、相手に対する気遣いや気配りなど、とても丁寧な対応をしていただくことがあります。秘書課では特に多く感じております。

理事者との面談の日程調整は電話で対応することが多いですが、改めて面談日の前日に「明日、何時に伺いますのでよろしくお願いいたします」などと電話をいただくことが多くあります。日程調整の連絡をしてから時間が経過していることもあり相手が忘れていないか、日時が正確に伝わっていたかなど確認のための連絡だと思いますが、万が一、どちらかが勘違いをしていたり忘れていたりすると大きなミスに繋がってしまうこととなりますので、私も大切な確認だと思って、そのような対応を心掛けております。

また、業務に関する連絡は、メールでもやり取りすることが多くあります。こちらでも、メールを送った側と受け取った側に認識のズレがあるとミスに繋がるケースもあるためだと思いますが、メールの送受信の際にも確認のための連絡をいただくことがあります。私も案件によっては、メール送信のみではなく間違いなく送信されているか、内容が正しく伝わったか、電話で確認をするようにしております。ちょっとしたミスから信用を失ったり、信頼をなくすることもありますので、当たり前ことですが、少しでも疑問や不安に思うことがあったら確認するように心掛けております。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月19日(月)  
**担当者** 税務課長 近藤 将雄

おはようございます。税務課長の近藤です。

市税には様々な種類の税がありますが、本日はそのうち、個人市民税と確定申告についてお話をさせていただきます。

個人市民税は、個人の年間の所得に対して課税される市税で、国税の所得税と同様の税です。

所得に対して課税されますので、簡単に言えば所得が高くなれば税が高くなる計算となりますが、所得額のほか、その人の生活実態の要素も含めて計算されます。例えば同じ所得の方であっても、扶養している方が多ければ税が低く計算されるイメージです。そういった個人の方の生活実態を把握し、正しい税額を計算するために大切なのが年末調整です。

ただし、年末調整では把握しきれない内容も多くあります。例えば給与以外の所得がある方や、年末調整では申告できない医療費控除がそのひとつです。そして、そういった所得などを申告いただくのが確定申告です。

税務課では毎年2月から3月にかけて約4,500名の方の確定申告を受付けており、現在、来年の確定申告受付に向けた準備を進めているところですが、新型コロナウイルス感染防止対策をどのように行うか日々検討を進めているところです。

確定申告については、税務署に簡単な手続きを行うことによって、自宅のパソコンやスマートフォンから直接申告することができます。職員の方で確定申告される方は、ぜひ、来年は自宅から直接申告をしていただき、申告会場の密防止にご協力いただきますようお願いいたします。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月20日（火）  
**担当者** 危機管理課長 荒川 亨

おはようございます。危機管理課長の荒川です。

危機管理課は防災・防衛の用務を担当しておりますが、どちらについても言える事は、常に想像力が求められる事です。防災の世界ではしばしば想定外をなくせと言われます。北広島市に津波がくることも、他国の飛行体が頭上から落下してくる事も、妄想と笑われるかも知れませんが、想定をすることが求められます。その上で水害や地震などのリスクとも比較をし、限られた時間、人員、予算の中でどこに重きを置いて備えをするかを一つ一つ決定していきます。結果として備えをしないリスク対象があるとしても、想定だけはしておく必要があります。

さて、想像をしながら用務を進めるということは、日頃から誰もがしている事ではないでしょうか。書面通知を発出するときでも、児童・生徒が読むものなのか高齢者に宛てたものかなど、様々に文字の大きさや使用する言葉を工夫しているのではないのでしょうか。私たちの用務の多くには相手が存在します。月並みではありますが相手の立場、気持ちになって対応をすることで、より効果的、効率的に物事が進む事が期待されます。右から左に言われた事を機械のようにただ作業としてこなしていくのではなく、そこに人間として想像力を働かせて仕事をする事で、より効果の高い成果や相手への配慮、事後への備えにつながります。

防災の話に戻りますが、災害への備えが活かされるのは悪い事案が生じた時であり、防災訓練の成果や備蓄品が活かされないまま無駄となる事が誰にとっても最良であります。危機管理課の用務が無駄で不毛な用務であり続けることを望みつつ、危急の際には全庁が一丸とならなければ市民の安全と安心を守ることはできません。業務多忙のおり、訓練への参集等が負担となる事もあるかとは思いますが、平常時、災害時を問わず、引き続き災害対応に向けた全庁的なご協力をお願いいたします。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月21日(水)  
**担当者** 防災危機管理室参事 緑川 節生き

おはようございます。防災危機管理室参事の緑川です。

本日は「情報」についてお話ししたいと思います。

日本語では情報の一言でも、英語にはデータ、インフォメーション、インテリジェンスという概念があります。

単なる事実や、インターネットなどで見られる真偽不明なものをデータ、データを評価分析・集約して一定の価値を持たせたものがインフォメーション、そのインフォメーションの信頼性や適切性を判定し、既得の情報との関連性を考慮して、今後起こり得る事象を明らかにするとともに、不測の事態を未然に防止するため、蓋然性は低くとも最も重大な影響を及ぼす事象などを明らかにしたものをインテリジェンスと呼びます。

例えば、気象庁の台風情報はインフォメーションに過ぎませんが、それを基に過去の同様な台風による被害状況などを考慮しつつ、予想降水量から河川・内水の氾濫の可能性と被害が及ぶ範囲、強風に伴う影響などを見積もるとともに、それらの地域に対する避難指示等発令の可能性や手段、避難所となる施設や経路の現況などを含め、市民の安全を確保するための処置に必要な判断、即ち災害対策本部長が発令する命令・指示に資するよう分析されたものがインテリジェンスです。

しかしながら、自分たちに都合の悪い情報を曲解したり、見て見ぬふりをした結果、人為的な被害を増大させた例は、他自治体においても数多く見られます。対策に多大な困難を伴うことであっても、これは厳に戒めなければなりません。また、情報は完全性よりも適時性の方が重要です。情報は待ち受けるのではなく、収集すべき項目を定めて積極的に獲得する着意が必要となります。

情報とは「情けに報いる」と書きます。情けをかけてくださる方々に少しでも報いることのできるよう、適切な見積りにより、的確な情報を、適時に提供できるよう心掛けたいものです。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月22日(木)  
**担当者** 災害復興支援課長 伊達 千秋

おはようございます。災害復興支援課長の伊達千秋です。

日本は、毎年のようにどこかで大災害が発生しています。

しかし、多くの場合、北海道では「たまに」、北広島市では「ごくまれに」災害を経験するというのが実態ではないでしょうか。

そのため、平成30年北海道胆振東部地震では、職員のほとんどが「職務上初めて」の災害対応の経験であったのではないかと思います。

職務として振り返ると、私も経験するまでは、自然の脅威を甘く見ていたひとりです。

防災訓練や完成した防災施設を見て、組織や人間、施設の対応能力を過大に想定して、心のどこかで、自分のまちには災いは来ないと思い込んで油断しておりました。

現在、災害復興支援課では、地域住民はもとより職員の協力を得ながら、市内において最も地震による被害の大きかった大曲並木地区の復旧・復興に取り組んでおります。

復旧・復興、特に非常招集時には、全職員の協力が必要ですが、市職員といえども家庭があり、家族がいると思います。

多数の職員が犠牲になると、復旧・復興が大幅に遅れますので、平常時から職員も家族や自らの命を守ることを最優先に考えましょう。

そこで今一度、寝室の家具などの転倒防止ができているか確認してみたいかがでしょうか。

また、

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。



**放送日** 令和2年10月23日（金）  
**担当者** 総務部派遣課長 花田 秀樹

おはようございます。総務部付課長の花田です。

私は、千歳市に事務所があります道央廃棄物処理組合へ派遣され3年目となりました。

当組合は、本市のほか、千歳市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町の2市4町で構成する一部事務組合であり、廃棄物焼却施設の設置、管理及び運営に関する業務を共同処理しており、令和6年度からの施設稼働に向けて業務を進めているところであります。

業務の進捗としましては、昨年度に建設工事の入札を行い、受注業者との契約を終えて、現在、建設現場では、軟弱地盤対策や浸水災害対策のための場内整地及び盛土、造成工事を行っているところであります。

今後は、建築工事の着工を今年度末から始まり、令和6年4月から焼却ごみの受入れを開始することになります。この間に、本市では、ごみ分別の方法を「焼却ごみ」と「不燃ごみ」などに変更することになります。

12年前の平成20年10月に、本市が家庭ごみの有料化を開始した際は、全庁的な協力体制により、ほとんどの職員が朝早くからごみステーションに立ち合い、分別の指導にあたったのを思い出します。

今後の分別方法の変更につきましても、職員の皆さんの協力が不可欠でありますので、是非、よろしくお願ひしたいと思ひます。

話は変わりますが、現在私が勤務している組合の事務所が、来月の11月9日から千歳市役所庁舎内にあります西庁舎へ移転します。

千歳市での会議などがあつた際には、本市からは3名の派遣職員が勤務していますので、是非立ち寄つていただきたいと思ひます。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月26日（月）  
**担当者** 市民課長 志村 敦

おはようございます。市民課長の志村 敦です。

新型コロナウイルスの禍<sup>わざわい</sup>により、マスクの着用、手洗いや消毒の徹底、3つの密を防ぐことなど、感染拡大の防止のための予防対策や新北海道スタイルの実践に努めていますが、コロナ禍において人と人とが接する機会が少なくなり「コミュニケーションの分断」という現象が起こってしまうことに危惧を感じています。

多くの皆さんが、日常生活、職場や地域社会において対話により人間関係やコミュニティの構築に努めてきたことと思いますが、コロナ禍においては、直接会うことや受け渡しすることが困難となるなど、繋がるための手法が限られてしまい、せっかく築き上げた「繋がり」が希薄となり、壊れてしまうのではと感じています。

9月にはイベント等の開催制限の緩和も打ち出されましたが、感染拡大の防止は未だ重要事項であり、繋がるためには電話のほか、ZOOMやLINEの活用によるオンライン会話など新しい生活様式による手法が必要となり、携帯電話やパソコンを持っていない方や、使い方が不慣れな方などにはかなりの負担となってしまう、繋がるのが難しくなるのではないかと感じています。

市民課では7月と9月に、コロナ感染拡大の予防と地域コミュニティ活動の両立を図るための基本的な考え方を示し、活動の取組例などを紹介する「地域コミュニティ活動ガイドライン」を作成いたしました。

地域におけるコミュニティの維持や活動は、災害などのときは重要な役割を担うものであり、繋がるのが難しくなっている今日、私たち市民課はコロナに負けな、強い地域連帯の構築に向けて今後も市民の皆さまに役に立つものを生み出してまいりたいと考えております。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月27日（火）  
**担当者** 西部出張所長 寺岡 純

おはようございます。西部出張所長の寺岡です。

今年の4月、14年間勤務した行政管理課を離れ、歴史ある輪厚地区の出張所に着任しました。歴代所長は地域の方々から「輪厚村の村長」という呼び名で頼られ、親しまれてきました。私も先人が積み重ねてきた信頼を裏切らぬよう、来所される方々の対応に精を出す毎日です。

本日は私が感じていることを率直にお話しします。それは、昭和の頃と同じ発想で作られている様々な申請様式が、多くの市民の負担になっているということです。

西部出張所に来所される方の半分以上は申請様式の書き方がわからず、窓口の職員が書き方をお教えしていることをご存じでしょうか。もちろん、スタッフは丁寧な対応を心がけており、そのことで「出張所の職員は対応が良い」というご評価をいただいている事実ではありますが、そもそも要らぬご負担を市民に強いているのではないかと、窓口職員はそのマイナスを多少取り戻しているだけなのではないかと、という疑念が捨てきれません。ご高齢の方が多きこともあり、文字を書くこと自体に難儀している方もおられます。申請において、その内容が全て手書きでなければならない理由はありません。市民の手続の負担を減らし、合わせて職員側も効率化が進むような発想が、これからの行政には必要ではないでしょうか。

現在いくつかの自治体で「書かない窓口」という取組が進んでいます。これは、窓口で聞き取った内容を職員が専用システムに入力し、申請内容を含む申請書を出力して署名だけしてもらうのが基本的なフローですが、市民の負担軽減、窓口の滞留時間の短縮などに絶大な効果を発揮しているそうです。そこまで費用をかけずとも、申請様式を簡素化する、書く量を減らす、押印を不要とするだけでも、かなりの負担軽減になるのではないのでしょうか。こうした発想を是非、皆さんが所管される業務の見直し等に役立てていただければと思います。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月28日（水）  
**担当者** 大曲出張所長 渡邊 広樹

おはようございます。大曲出張所の渡邊広樹です。

職員皆さまもご承知の通り出張所は、市役所の出先機関であり、住民票や税に関する諸証明の発行、市税や水道料などの現金収受から、転入、転出に伴う手続き、各種事業の問い合わせなど、幅広い業務を取り扱っております。また、地域における困りごとや市に対する相談、要望など、言わば地域における市の総合窓口としての役割を担っております。今年も4月から道路や側溝の破損、キタキツネへのエサやりの問題、ごみの不法投棄、漏水など、様々な相談が寄せられておりますが、担当部署に伝達すると即時対応していただき、大変感謝しております。この場をお借りしお礼申し上げます。大変ありがとうございます。さて、今年4月から24年ぶりに大曲出張所に勤務しておりますが、市役所においていかにIT化が進んだか改めて感じているところであります。24年前の平成8年は、わがまちが市制施行となった年であり、出張所にパソコンが配置され、それまで原本複写に公印を押印しての証明から、現在も使用している複写防止措置が講じられた専用紙による電子公印での証明が始まりました。平成12年にIT基本法が制定、行政におけるIT活用が加速されました。現在、出張所には住民記録や市税などの情報管理システムのほか、国民健康保険や後期高齢者医療、個人番号に伴う統合端末など多くのパソコンや情報機器が配置されております。事務の効率化、迅速化が図られ、市民サービスの向上に繋がっていることを感じていると同時に業務における確認作業の重要性を再認識しているところであります。今年にはコロナ禍のため、これまでと異なる事務手続きが多くなっておりますので、事務処理に十分注意し、適正業務に努めてまいります。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月29日(木)

**担当者** 消防本部総務課長 石黒 哲明

おはようございます。消防本部総務課の石黒です。

10月1日に辞令を受け、約1ヵ月になります。学童クラブの元気な子供たちの声が響いていた前西の里出張所の職場環境から、消防車、救急車の出動命令の放送が鳴り響き、消防士、救急隊員たちが行き来する緊急現場の最前線の職場環境になり身が引き締まる思いです。

現在、今後の業務計画や課題をスタッフと整理中ですので、今日は、前職場の西の里出張所で行った、避難訓練について話したいと思います。

西の里出張所は西の里公民館の中に入っており、西の里公民館の管理も行っていました。西の里公民館は消防法施行令により、防火管理者を置き、年2回の消火、避難、通報訓練の実施を義務付けられています。私も着任した年に防火管理者の資格を取得しました。

今年は、9月下旬に3つの訓練を併せた総合訓練を実施しました。

新型コロナウイルス感染防止のため、消防署による指導、講評は、実施できませんでしたので、代わりに私が大切なことを話しました。

「今回は火災を想定して訓練しましたが、地震や不審者が発生した場合にも同じ避難手順になるので、覚えておいてほしいこと」「いつ自分が、火災の発見者、通報者になるかもしれないので、消火器、火災報知器、非常口の位置を確認しておいてほしいこと」を伝えました。

皆さんも、現在執務しているフロアの消火器、火災報知器、非常口の位置はわかりますか。

10月15日から31日まで、秋の全道火災予防運動を実施中です。この機会に確認して防火、防犯に役立ててください。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

**放送日** 令和2年10月30日（金）  
**担当者** 環境課長 阿部 泰洋

おはようございます。環境課長の阿部泰洋です。

環境課では、公害対策や地球温暖化防止、アライグマやヒグマ対策などの業務を行っている環境保全担当、犬の登録や浄化槽の整備、火葬場や霊園管理などの業務を行っている衛生・霊園担当、ごみの収集や減量化・リサイクル、最終処分場の管理などの業務を行っている廃棄物計画担当、廃棄物管理担当により、北広島市の自然環境の保全と生活環境の維持に取り組んでいます。

今日は、私が普段意識していることについてお話しさせていただきます。

仕事においても、私生活においても、「現状維持は後退と同じ」という言葉を意識して考えるようにしています。

これまでと同じことを繰り返すことは、一度経験しているため、結果も見えやすく、つい、そのままでいいという考えに流されてしまいがちです。

一方、いま行っていることを変えたり、新しいことを始めるには、スケジュールや費用などの調査や調整が必要であり、予測しないことが起きるなど大変なことが多いと思いますが、時代の流れに遅れることなく、市民ニーズに対応していくために「現状維持は後退と同じ」という言葉を意識して、改善するところはないかなどを考えるようにしています。

来年度の予算編成の時期になりましたが、現在行っている事業の見直しや、新たな施策などに取り組むことにより、市民にとってより住みやすい環境のまちづくりを推進していきたいと考えています。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。